発信№27
令和５年２月１０日
さといも振興研究会
親芋・残渣チーム

さといも親芋･残渣の適正処分について

サトイモ疫病の最大の原因は野良生えです。その理由は残渣等には種芋消毒や防除をしていないことや廃棄場所の多くは日陰で湿度が高く病気が発生しやすいためです。

昨年、一昨年は発生が遅かったためサトイモ疫病の大きな被害はありませんでしたが、令和元年のように６から７月の温度、湿度が高く降水量が多いと初発生が早くなり大発生して甚大な被害をもたらします。

そこで、適正処分方法の例を紹介しますので参考にしてください。

サトイモ疫病は伝染力が高いのですぐに周囲の**ほかの人の畑**にも伝わってしまいます。**そこで、日本一の産地を守るために残渣の放置や野良生えを見つけたら止めていただくようにお声掛けをお願いします！**

野良生え対策　例１　フレールモア（粉砕草刈り機）の利用

フレールモアを利用し親芋や残渣を細かくします。**ただし、畑で実施するとその後の野菜の発芽に影響を及ぼす危険性があります。**

親芋や残渣を列状に並べ、フレールモアで粉砕します。	粉砕後の状態　この程度にするには３回以上は粉砕処理する必要があります。春に実施した場合小さな芽が出ることがあります

野良生え対策　例２　　厚手ブルーシートの利用

残渣の山に上に**厚手**のブルーシートで被覆し、飛ばされないように土のう等で固定しする方法です。
持ち上げてくるので土嚢を多数置いてください。秋になると山が低くなり芋は皮だけになります。

厚手のブルーシートで残渣の山を覆い、ブルーシートが飛ばされないように土のうをたくさん置きます。飛ばされる場合に備えて木に繋げておくと安全です。	８月 17 日　たくさん出ていた葉の多くは腐り、新たに出ているものは小さいです。

令和４年試験結果（所沢市の結果例）より

設置日　６月１日 令和 4 年度試験は、嫌気状態を狙って農ポリをかけてその上のブルーシートを被覆した。なお、この場所はとても日当たりの良いところであった。	7月１日　完全に腐熟 日当たりの良いところであり梅雨明けが早く高温が続いたため発酵が促進した。21 日間未満で完全に腐ったことになる。ただし他所では農ポリがない場合と変わらなかったため嫌気状態の効果は不明。

その他の方法

・枝豆の残渣や剪定枝を大量に載せる方法

・２月までに出る残渣については、畑に放置（山にしない）して霜にあてることで腐らせる方法

・ゴミとして清掃工場で処分する方法

・次作のための土壌消毒を活用する方法

などが検討されています。　　お問い合わせ　川越農林振興センター　☎049－242-1804

さといも親芋･残渣の適正処分を産地一体となって取り組みましょう！